

# 自験例（祖父江）を再考する！

神経症・パーソナリティ障害編

全10回  
配信

講師  
祖父江典人  
名古屋心理療法  
オフィス

令和7年5月から配信スタート

※日本臨床心理士資格認定協会ポイント定例型（継続型）研修会（4ポイント）として認可済

[受講料] 3万円（院生、研究生2万円）

[受講資格] 臨床心理士、公認心理師、医師、看護師、福祉系援助職、教師、臨床心理系の大学院生、その他守秘義務を持つ専門家

[締切] 令和7年4月30日（締切以降でも、5年以内申し込み可）

[申し込み] 別添の「WEBセミナー第六期参加申込書」に記入の上、事務局（nagoya\_psy@yahoo.co.jp）までお送りください

## 第六期 ごあいさつ

第六期は「自験例(祖父江)を再考するⅠ——神経症・パーソナリティ障害編」と銘打ち、講師の祖父江自身の過去の臨床素材を提示し、再考します。さらに、その次の第七期は、虐待やASDなどの臨床素材を扱います。第六期、第七期と連続して、それぞれの疾患・病態・心理療法での特徴や異同を振り返りたいと思います。

まず、今回取り上げる神経症圏の方たちは、基本的に現実適応は悪くないですが、不安症状、強迫症状、身体化などによって、症状がもたらされます。その根底には、情緒や欲動の強すぎる抑圧が潜んでいます。パーソナリティ障害の方たちは、人との関係にさまざまに困難がもたらされ、現実適応まで支障を来たします。どちらも自らの情動や欲動を洞察し、モーニング・ワークして行くことが必要となりますが、祖父江自身の今昔の技法的な考え方の違いも提示していきたいと思います。

第六期は、神経症からパーソナリティ障害、第七期は、虐待後遺症からASDまで、祖父江自身の臨床素材を通して、私たちが関わることの多いところの病に関して、全体を俯瞰できる視点を提示し、皆様の日々の臨床の考える素地にさせていただきたいと思っております。今回はその第一弾です。

なお、講師は祖父江典人ひとりによる講義です。

### セミナー 講義スケジュール 令和7年度(2025) 約2時間

月日	テーマ	講師
2025/5/26(月)配信予定	神経症とパーソナリティ障害の心理療法の特徴	祖父江典人
2025/6/30(月)配信予定	不安性障害(依存欲求の身体化)の自験例:再考	同
2025/7/28(月)配信予定	不安性障害(疲弊したスター性)の自験例:再考	同
2025/8/25(月)配信予定	強迫性障害(加害恐怖と献身)の自験例:再考	同
2025/9/29(月)配信予定	抑うつ性障害(不在の乳房)の自験例:再考	同
2025/10/27(月)配信予定	境界例(性的万能空想)の自験例:再考	同
2025/11/24(月)配信予定	摂食障害(過食嘔吐のマゾヒズム)の自験例:再考	同
2025/12/29(月)配信予定	スキゾイド・パーソナリティ(異人空想)の自験例:再考	同
2026/2/23(月)配信予定	薄皮の自己愛パーソナリティ(子どもの声の恐怖)の自験例:再考	同
2026/3/30(月)配信予定	薄皮の自己愛パーソナリティ(過去の栄光と衰え)の自験例:再考	同

#### ◇ ミニSVコーナー／質問コーナー

- ・理論と実践を結びつけるために、ミニSVを受け付けます。
- ・臨床事例のミニSVを求められる方は、A4、1枚程度に臨床事例の要点をまとめ、検討事項をお示しください。
- ・臨床事例は構造化された面接には限りません。福祉や教育やリエゾン系の援助事例でもかまいません。
- ・まとめ方や検討事項の提示の仕方は、特に決まりはありませんのでお任せします。翌回のセミナーにて回答いたします。
- ・なお、本セミナーは守秘義務のある会員のみ視聴できますが、念のため守秘性を担保するために、事例の一部 改ざん等は、必要に応じてしてください。
- ・また、各回のセミナー講義に関する質問を受け付けます。翌回のセミナー講義の中で、ご返答いたします。講義内容自体でなくとも、そこから連想された質問でも構いません。



## 日常臨床のための対象関係論WEBセミナー趣旨

本セミナーは、**WEB形式(ストリーミング動画配信)**による**セミナーを実施**しております。ストリーミング配信ですので、忙しい日々の合間を縫って、お好きな時間に受講いただけます。さらには、「質問コーナー」と「ミニSVコーナー」を設け、参加者の方々との双方向のコミュニケーションを図っております。

まず、本セミナーの趣旨を述べたいと思います。

今日、臨床心理士・公認心理師の職域が広がりを見せつつあることを鑑み、日常臨床の現場に活かせる精神分析の応用を、本セミナーの趣旨としています。

では、精神分析の理念とは何でしょうか。それは、「自己を知る」ことによる自我(主体性)の強化です。ですが、今日増加傾向にある愛着障害(ASDや虐待後遺症)の心理療法や援助においては、従来の精神分析の枠では理解の及ばないところの世界が広がっています。愛着の基盤が脆弱だったり、人と人との関係性の実感の薄い病態が広がっているのです。

このために、技法的工夫も必要とされます。すなわち、「自己を知る」ことによる自我強化ばかりでは、自己の孤立になりかねず、人間界での共有感の醸成の視点も、等しく重要になるのです。この視点は、私たちの臨床・援助現場が、従来の医療のみならず、福祉、教育、身体医療(リエゾン)などに裾野を広げるとともに、ますます重要性を増すことでしょう。

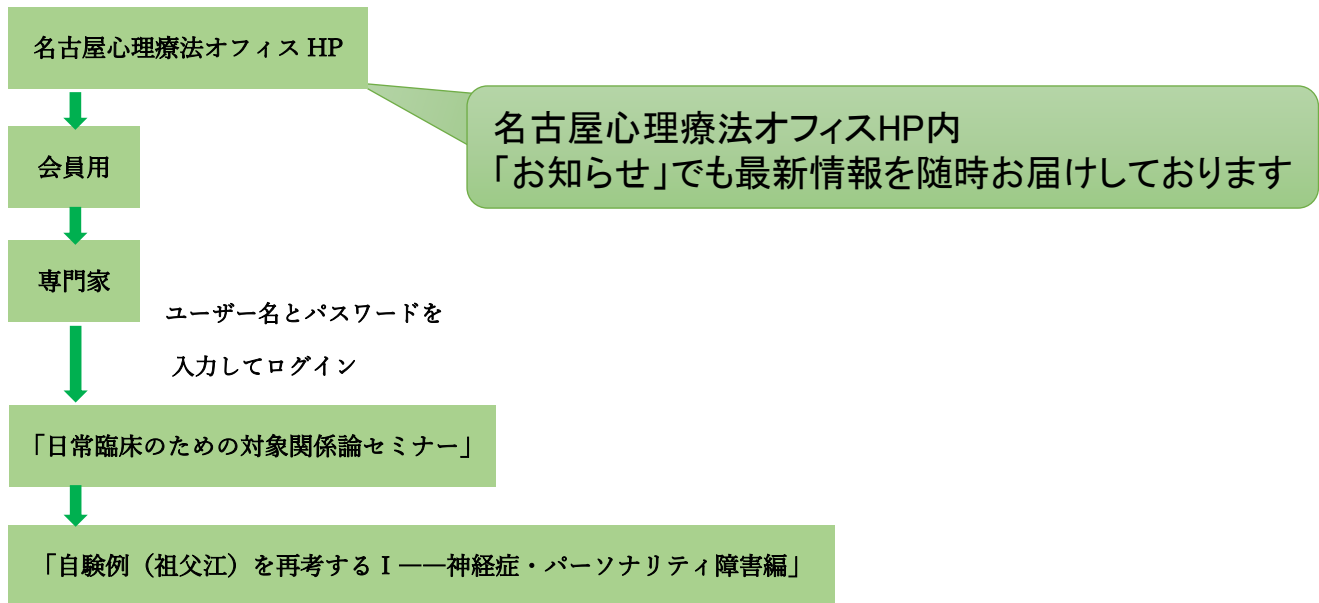
本セミナーでは、精神分析の先人たちの理論・技法を基本として学びながらも、それら**オーソドックスな分析臨床との技法的異同を明確にし、現場に即した日常臨床への活かし方を検討することを主眼**としています。

どうぞ皆様のお申し込みをお待ちしております。

令和7年1月10日

日常臨床のための対象関係論WEBセミナー代表  
名古屋心理療法オフィス 祖父江典人

### ◇ WEBセミナーの受講方法について



・会員サイトへのログインユーザー名とパスワードの設定は、別紙「WEBセミナー第六期参加申込書」にてご案内しております。

・ストリーミング動画配信ですので、インターネット環境があれば、いつでも何回でも好きな時間に視聴可です。(※PCでもスマホでも視聴可)

・受講いただいたセミナーに関しては、**視聴期限はなく、本オフィスが続く限り、視聴できます**

お問い合わせ:

[メール] [nagoya\\_psy@yahoo.co.jp](mailto:nagoya_psy@yahoo.co.jp) (事務局: 中村)

[ホームページ] <https://nagoya-psychotherapy.com/>